

番号	4	平成27年度公共事業事後評価調査				担当課名[河川海岸整備課]	
事業名	広域基幹河川改修事業				事業主体	静岡県	
箇所名	一級河川 大場川 (三島山田川工区)				市町村名	三島市	
事業概要							
事業期間	当初 又は前回	H7年度～	H36年度	事業費	当初 又は前回	582百万円	
	実績	H7年度～	H22年度		実績	715百万円	
事業量	大場川広域基幹河川改修事業 改修延長330m (本工事：築堤4,040m <sup>3</sup> 、掘削3,370m <sup>3</sup> 、護岸5,330m <sup>2</sup> ) (付帯工事：道路橋1橋、鉄道橋1橋)						
事業の目的・必要性							
<p>1. 事業の目的・必要性 三島山田川を含む大場川流域では、狩野川台風以降（狩野川放水路整備以降）において昭和49年7月に最大の浸水被害が生じている。これと同規模の降雨でも浸水被害が発生しないよう、時間雨量67.8mm（年超過確率1/20相当）で発生する洪水を安全に流下させる。</p> <p>2. 河川及び事業の概要 三島山田川は箱根連山の西麓にあたる三島市五輪付近に源を発し、丘陵地を流下しながら三島市小山地先付近で大場川に合流する、流域面積16.0km<sup>2</sup>、流路延長7.4kmの一級河川であり、東京のベッドタウンとして流域での宅地開発が盛んである。昭和36年6月洪水の浸水区間を対象に、昭和37年から河道改修に着手し、堤防の整備と河積の拡大を進め、昭和43年までにJR東海道本線迄の約0.8km区間で改修が完了している。平成7年から引き続き当事業により上流区間の改修を進め、平成22年に約1.13kmまでの区間が完了した。</p>							
事業の効果等							
費用対効果 分析結果	当初 又は 前回	B/C	総費用	4.43 億円	総便益	6.08 億円	基準年
		1.37	（事業費： 4.11億円 維持管理費： 0.49億円 残存価値： -0.17億円）		（便益： 6.08億円）		H 16 年
	事後	B/C	総費用	7.67 億円	総便益	9.11 億円	基準年
		1.19	（事業費： 6.47億円 維持管理費 1.20億円）		（便益： 8.65億円 残存価値： 0.46億円）		H 27 年
(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化							
<p>流域における宅地開発等の開発行為による市街化により、被害軽減便益は高くなっている。 鉄道交差部の河川拡幅に際し、当初想定していなかった鉄道盛土部の補強が必要となったため、費用が増大した。</p>							
(2) 事業の効果の発現状況							
<p>事業完了後、計画の年超過確率1/20の降雨（時間雨量67.8mm）と同規模の降雨が発生していない。 事業実施中に来襲した平成19年9月の台風9号では、時間雨量18mmで本川が溢水し周辺の農地被害が発生したが、完成後最大の降雨である平成25年8月豪雨では、時間雨量43mmでも本川の水位は十分低く、流域での浸水被害が発生していないなど、一定の治水効果が確認されている。</p>							

## 事業実施による環境の変化

植生等に配慮した整備により、周辺環境と一体となった河川空間が創出された。  
新たに河川管理道が整備され、地元住民が散歩したり水と触れ合うことが可能となった。遊歩道は大場川本川沿いなどでも整備されていることから、これらと連携した河川空間の活用が期待できる。

## 社会経済情勢等の変化

三島山田川流域は、三島市の都市計画マスタープランにおいて、農地利用が計画され、美しい森林景観や斜面農地等の自然環境の保全を目指している。また、耕作放棄地などを活用した農業体験農園等の開設や観光農業の推進、箱根西麓三島野菜の展開など、多様な農業の推進を図る地域づくりも計画されている。特に三島山田川沿いには利用価値が高い平野が広がっており治水安全度の向上が上記計画の推進に果たす役割は大きく、河川改修により自然環境を積極的に保全・推進する地域として発展していくことが期待できる。

また、三島市全体における近年15カ年の人口および世帯数は、人口が若干減少しているものの世帯数は増加しており、三島駅などの中心市街地に近く、東駿河湾環状道路の開通等により利便性が向上している三島山田川流域の宅地化の要請は今後も高いと想定される。

一方、65歳以上の人口割合が年々増加するなど、要援護者は増える傾向にあり、ハード整備による治水安全度の確保は極めて重要である。

	人口			年齢別人口(割合)			世帯数
	男	女	合計	0～14歳	15～64歳	65歳以上	
H11	54,622	56,855	111,477	—	—	—	41,066
H16	55,884	57,666	113,550	—	—	—	44,108
H21	55,775	57,697	113,472	15,327(14%)	73,059(64%)	25,086(22%)	46,463
H26	54,775	57,137	111,912	14,657(13%)	68,103(61%)	29,152(26%)	47,903

※三島市HPより  
※各年12月31日時点での値を使用

## 対応方針（案）

### （1）評価結果

事業効果は十分に発現しており、改善措置の必要はない。

事業完了後、計画の年超過確率1/20の降雨（時間雨量67.8mm）と同規模の降雨が発生していないため、同規模での実現は把握できていない。事業実施中の平成19年9月の台風9号では、時間雨量18mmで本川が溢水したが、完成後に経験した計画規模以下の豪雨（平成25年8月、時間43mm）においては、この流域での浸水被害が発生していないため、治水効果が発揮されているものと考えられる。

### （2）今後の課題等

計画規模相当の降雨を経験していないことから、引き続き整備効果の検証に努める必要がある。

気候変動による局地豪雨の増加及び台風の大型化等により改修規模を上回る降雨から住民の生命を守る対策が必要である。ハザードマップの利活用、防災情報の提供といったソフト対策を市の関係機関や地域住民とも連携して推進する必要がある。

今後は、河川パトロール等や草刈など、河川管理者として適切な維持管理に努めるとともに、地元との協働による河川管理（リバーフレンドシップ制度）を取り入れるなど、「地域の河川を地域で守る」という意識を醸成していく。

### （3）同種事業への反映等

治水に加え、環境や河川利用、事業実施による影響等に配慮した川づくりを地域住民との協働により推進し、適正な改修、維持管理を図っていく。



# 一級河川 三島山田川 位置図

三島市  
1:12,500

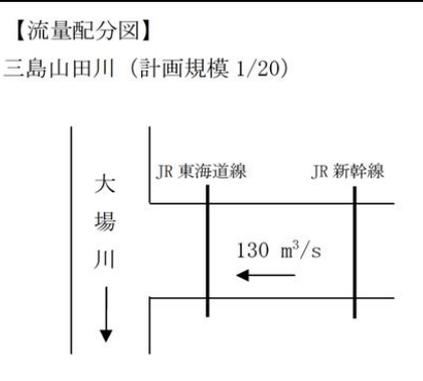
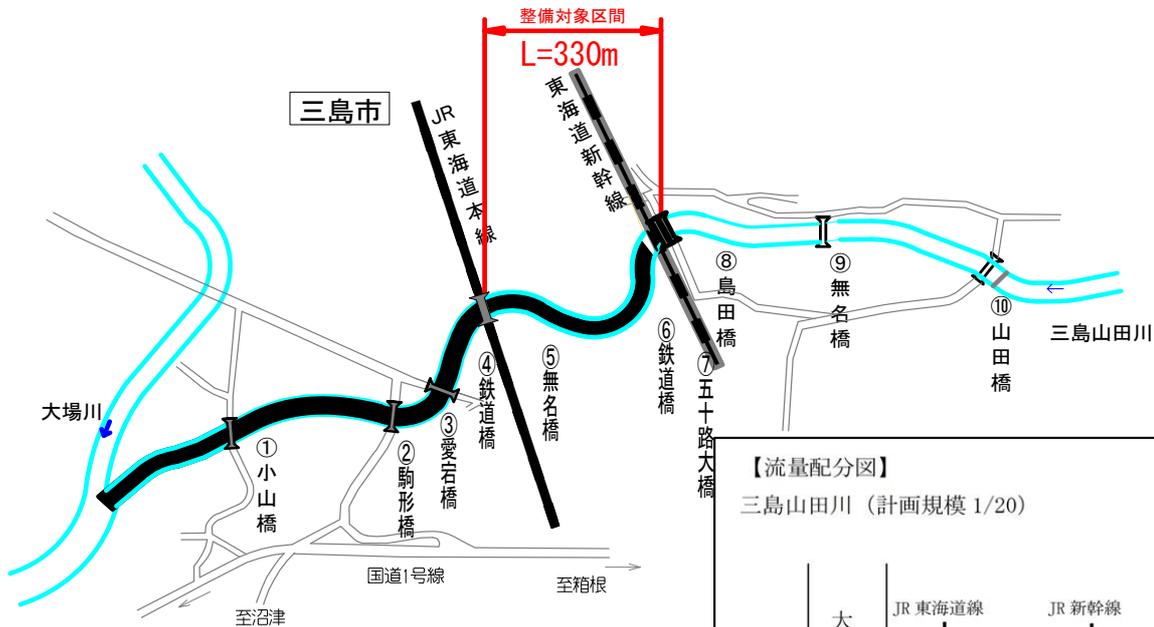
整備対象区間

L=330m

三島市

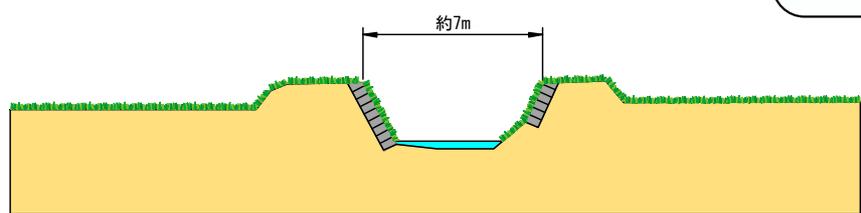
凡例	
事業対象箇所	
流域界	
S36.6浸水実績	
H19.9浸水実績	

# 概略平面図

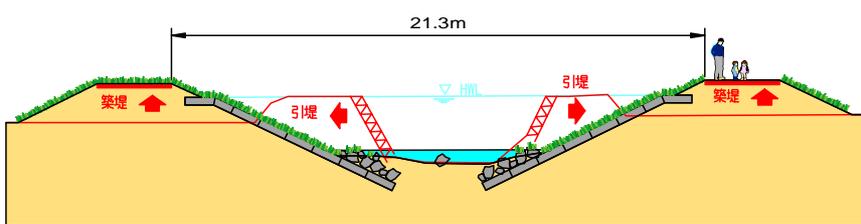


# 横断図

流下能力  
52.28m<sup>3</sup>/s  
↓  
138.00m<sup>3</sup>/s



改修前横断図



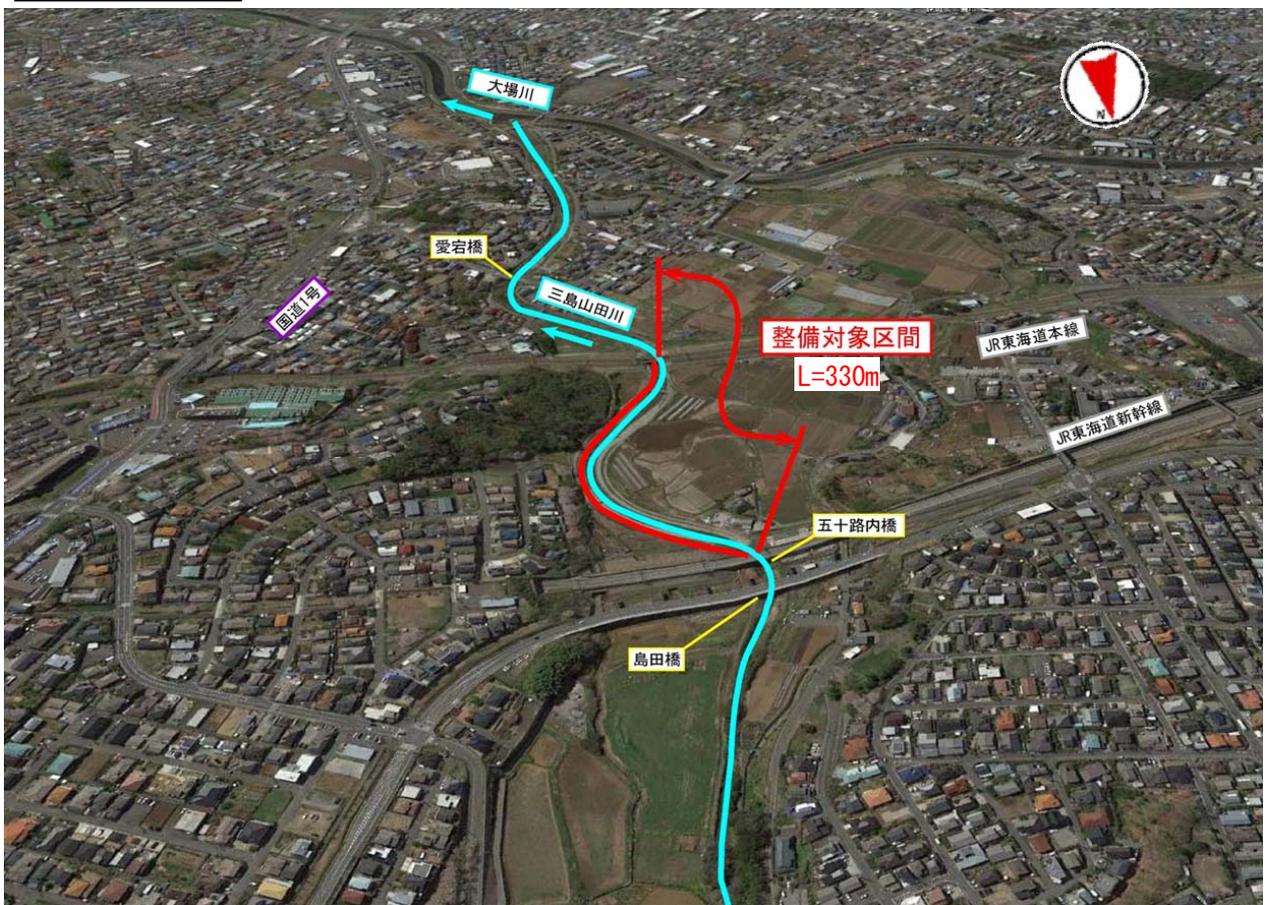
改修後横断図

# 一級河川 三島山田川 航空写真

## 垂直写真

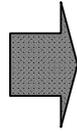


## 斜め写真

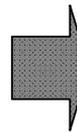


## 改修の状況

中間付近より上流を望む



起点より上流を望む



## 河川利用

堤防天端は生活道路にも利用されている



植生の復元



H26.10.6台風後状況



浸水後状況 (H19.9.5 台風9号)

